

2022 年度小委員会活動成果報告

(2023 年 2 月 15 日作成)

小委員会名	環境バリアフリー・ユニバーサルデザイン 小委員会		主 査 名：岩田三千子 就任年月：2022 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境設計運営委員会)		委員長名：秋元 孝之 主 査 名：中島 裕輔
設 置 期 間	2022 年 4 月 ～ 2025 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>高齢者や障がい者も活躍できる社会づくりのためには、バリアフリーやユニバーサルデザインの理念が大変重要であり、設計・計画分野のみならず、光、音、温熱、空気環境などの建築環境工学的なバリアフリー・ユニバーサルデザインの視点が重要である。</p> <p>委員会では、環境工学分野のバリアフリー・ユニバーサルデザインを専門としている研究者が集まり、情報を共有し、今後の日本や国内外の環境に関するバリアフリー・ユニバーサル環境をよりよいものにしていくために研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について検討していくことを目的とする。</p> <p>見学会などに参加して、設計事例の収集に努めるとともに、QOLや法律・条令・要綱などにおける高齢者や障がい者に対する建築環境工学分野の内容を把握する。さらに、委員の持つそれぞれの分野の研究成果について、委員会を各年度 4 回程度開催して情報交換を行う。</p> <p>初年度：今後の研究活動についての目標設定を明確にしながら、メンバー各自がさらなる研究活動を行う。また、それらの成果について、委員会や研究会・見学会を企画して継続的に情報交換を行い、知見を広める。</p> <p>2 年度：大会のオーガナイズドセッションにて、建築環境工学的視点のバリアフリーをテーマとしたセッションを開催し、この分野の議論を深める。</p> <p>3 年度：他分野や建築学会の計画系のバリアフリーおよびユニバーサルデザイン関連研究者とも連携し、公開の研究会を企画する。また、環境要素の相互関係に着目した環境工学研究の推進を図りながら、さらなる研究課題の抽出に努める。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無： 無</p> <p>主査：岩田 三千子 (摂南大学) 幹事：土川 忠浩 (兵庫県立大学)、西尾 幸一郎 (山口大学) 委員：安部 信行 (八戸工業大学)、柴田 祥江 (京都府立大学)、田中 直人 (島根大学)、宮本 雅子 (滋賀県立大学)、土田 義郎 (金沢工業大学)、伊藤大輔 (日本工業大学)、岡田 仁 ((株)ベネッセスタイルケア)、二井 るり子 ((有)プラネットワーク)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)			
2022 年度予算	180,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回（年度内計画を含む）
<p>目標の達成度 （当初の活動計画と得られた成果との関係）</p>	<p>1. 対面 1 回，オンライン 3 回で委員会を開催し，当初計画の開催回数を達成した。</p> <p>2. 2022 年度は，先進的なバリアフリーを施した居住型有料老人ホームの見学会を実施し，委員 5 名が参加した。 最新の設備、サービスの概要、居住者の入居までの経緯とその後の状況、暮らしぶりなどについて紹介があった。 ①施設運営面での I o T やビッグデータの活用、今後の課題 ②他との差別化を図り、サービスの向上につなげる ③施設や設備のデザイン上の工夫 ④個室や共有空間などの使われ方 など</p> <p>3. オンライン委員会では，委員 2 名が、各自が取り組む研究について情報提供し委員相互に意見交換を行った。 1) 「頸髄者等の体温調節と温熱環境に関する自作物あれこれ」と題し、環境工学を専門とする委員がこれまでに開発した、あるいは開発中の様々なシステムについて学んだ。 2) 「高齢者居住施設における様々な配慮の実態」と題し、建築計画を専門とする委員が関与する高齢者施設の照明制御、音環境課題、個別空調制御などの実態を知るとともに、利用者の好みの住環境や生活スタイルに合わせた様々な施設形態について学んだ。</p> <p>4. 2023 年度建築学会大会のオーガナイズドセッションを企画した。 セッション名：高齢者，障害者，子どもなどを支える基礎研究と実践例 主旨：21 世紀の成熟社会を真に豊かにするため，高齢者，障害者，子どもなど，誰もが地域・社会の一員として，安心して暮らし，持てる力を十分に発揮して元気に活躍できるユニバーサル社会の実現が求められる。本小委員会メンバーにより，過去にも同様のテーマで技術設計競技，研究懇談会，OS などを企画して，多様な人間についての研究成果やデザインの取り組みについて情報共有したが，この OS では，その後の研究やデザイン事例について情報交換し議論を深める。</p> <p>5. 環境工学分野の光・音・熱・空気の研究者だけでなく、建築計画系の研究者とも連携して、研究活動や新たな研究課題の抽出と重要性について多様な意見交換ができた。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 年度の前半は，新型コロナウイルス感染拡大により、見学や対面での委員会開催が困難であり予定していた見学会の開催が遅れた。</p> <p>2. 近年、大学関係の委員が特に多忙で委員会開催の日程調整が困難であり、夕方以降の開催を余儀なくされた。</p>

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2022 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

<p>総合評価 (4段階評価)</p>	<p>A</p>
<p>総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響受け、2022 年度もオンラインでの委員会開催が主となった。オンライン利用に慣れてきたこともあり、参加者が多い夕方の時間で委員会を開催した。</p> <p>オープン前の高齢者居住施設の見学会を実施し、最新でかつ高級感のある施設の配慮の実態を目の当たりにすることができた。</p> <p>委員が行っている研究活動についての情報提供があり、相互に意見交換を行うことで、バリアフリー・ユニバーサルデザイン環境の実現にそった個々の研究の方向性が見えた者もいた。</p> <p>2023 年度の建築学会大会において、委員が協力してオーガナイズドセッションに参加し他の会員にも情報提供や啓発活動を行う準備ができた。</p> <p>メンバー各人は様々な建築環境工学的な研究成果や活動の場を有することから、建築を専門とする実務者や学生のみならず、その他の学校教育の現場などに対しても、当該分野の研究成果や専門的知識をより分かりやすく発信していくための今後の活動、発展に期待する。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。